

様式 4

平成 2 3 年度 第 3 回学校関係者評価報告書

鳥取県立倉吉東高等学校
学校長 牧 尚志

評 価 日	平成 2 4 年 3 月 1 4 日 (水)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について 重点目標の達成状況 ①学校文化度の向上と地域からの信頼向上 ○規律ある生活と「文武両道」による自立の促進		評価は B (中間評価 C) ・生活規律(服装の乱れ)や部室の清掃に関して、教職員の適切な指導により、良好になる。文武両道に関しても、一部に困難な生徒もあるが、両立に努める生徒が増えた。 ・3年生は受験を通して人間的な成長が見られ、1、2年も学年相応の望ましい言動が出来るようになった。 ・アカデミックな刺激に関しては、専攻科生が下級生に授業を行ったり、3・専合同課外等を通して、勉学における縦のつながりが出来、生徒自らの学びを深めた。
○中高連携の強化と高大接続の円滑化		評価は A ・中学生を対象とした高校説明会には 350名の生徒が参加し、チューターの生徒が主体的、積極的に本校の魅力を伝えた。 ・「中学生向け英語特別講座」では参加者は111名(過去最高)あり、アンケートでは講座に対して 85%の参加者が満足と評価している。 ・倉吉東中学校とのスクラム教育では本校の英語科・数学科の教員が中学で授業を実施した(4月～2月)。また、本校の1・2年生が中学校に出向いて学習支援を行った。 ・倉吉東中学校の3年生全員が本校で5教科に分かれ、高校の授業体験をする(11月実施)。アンケートでは

- ・スクラム教育を行うことによって、東中の英語や数学の学力がどのように向上したのか、どういいう高い志を育成したのか、成果指標があったほうがいい。

②教育力の向上

○教員研修の充実と授業の工夫改善

- ・協同的な学びは優れた学習であるが、気を付けなければならない点がある。綿密な教材研究、先を見通したプラン、生徒の実態を掴む力など教員の指導力が問われる。また、グループ学習はプロセスの1つであり、目的化してしまっはいけない。グループを解体して学級が1つの集団となることが重要である。成功すれば、子どもの力が付く。頑張ってほしい。

参加者のほとんどが高い評価。

- ・本校の調査では、東中とのスクラム教育で英語の授業を受け、かつ「中学生向け英語特別講座」を受講した生徒の英語力は、平均点よりも有意に高い。
- ・更に発展させるため課題を明確にし次年度につなげていきたい。

評価はB

- ・協同的な学びは全国的に知見が進んでいる。一定の科学的な知見に基づいて進めていく。
- ・教育力の育成は、現状では十分ではなく、「協同的な学び＝協同学習」を本年度から本格的に取り入れた。教師が「教え込むこと」から学習者が主体的に「学ぶ」ことへシフトする。県内ではまだ本格化していないが、本校の目ざす学力観につながるものであり、本校が推進していく。
- ・岡山県立勝山高校から先生を招き、協同的な学びの授業実践を行ったが、協同的な学びの可能性・効果の大きさを実感した。次年度は充実させ、より重点的に行い、大きな1年とする。
- ・授業評価アンケートの⑫「授業に魅力を感じ、さらなる学習意欲が湧いてくる」について、A評価が前期29.6%から後期34.3%と徐々に増えているが、本校の目ざすものに達していない。
- ・前回指摘があった授業評価アンケートについて、次年度改善する予定である。質問項目⑤「なぜ？と疑問に思ったら先生に質問をおこなっている」⑥「授業からさらに発展した内容を自発的に学習している」の文言の改訂を行う。年度比較ではなく学年比較ができるものにする。

③進路指導の充実 ○教員の進路指導（進路目標を見据えた生き方指導）力の向上 ○国公立大学合格者数の維持・発展 ○難関大学合格者数の維持・発展 ④専攻科教育の充実 ○予備校との差異化と適正な進学実績の維持 ・経過・達成状況における評価のあり方として、全員がセンター点500をクリアーというよりは点の伸び率で指した方が適切ではないか。	評価はB ・3年生は人間的な成長が成し遂げられたが、集団全体が社会に視野を広げるところまではいっていない。 ・生徒との面談を密にし、生徒個々のつまづきや伸びしろを的確に把握し、指導に生かすことが出来た。 評価はB ・現役国公立大学合格者数は前期96名（3月9日現在）であり、現時点で昨年より20名減。センター試験では健闘したが、二次力が足りなかった。 評価はA ・難関大学合格者数は目標の20名を達成できそうである。東京大学は合格者数3名（昨年度6名）と減ながら、京都大学3名、大阪大学5名など健闘。 評価はA ・「学力は生活なり」を実施した。遅刻をしないこと、清掃の徹底、挨拶の励行の3つを生活の柱として重点的に指導した。 ・図書館と連携し、「学び祭り」を行い、集団で協同的に取り組み、学習者同士が教え合い、学び合い、高め合うことが出来た。 ・秋課外、センター前補習、2次課外など現役生と合同で行い、学習者が学び合い、高め合うことが出来た。 ・専攻科生66名のうち、前期試験で国公立大学に43名が合格。難関大学も多く合格者を出している。 ・伸び率を打ち出した方が適切であると思う。専攻科生平均で100点アップしている。他校から来た生徒は学校によっては、平均170点伸びている。
--	--

⑤定時制教育の充実 ○進路保障と学力の定着	評価はB ・生徒の進路実現に向け、教員間で共通理解を図り取り組むことで、休学者・退学者が減少した。3年生12名は全員が卒業。現在、進学2名、就職5名、未定5名。2年生、休学1名。1年生、退学1名。 ・2年生は全員若者仕事プラザに行かせ、職業適性診断や進路相談を受けより視野を広げさせている。 ・改善策として、個別面談をもっと早い時期から実施したり、長期休業中に登校日を設けるなどして、生徒理解や指導に生かすとともに、より意欲的な目標を次年度に加える。
2. 学校運営への提言 特になし	